

平成 28 年度
松川町財務書類



貸借対照表
行政コスト計算書
純資産変動計算書
資金収支計算書

平成 30 年 3 月

長野県松川町

平成 28 年度松川町決算財務書類目次

1 一般会計等

| | |
|-----------------------|---|
| (1) 貸借対照表【様式第 1 号】 | 2 |
| (2) 行政コスト計算書【様式第 2 号】 | 3 |
| (3) 純資産変動計算書【様式第 3 号】 | 4 |
| (4) 資金収支計算書【様式第 4 号】 | 5 |
| (5) 附属明細書【様式第 5 号】 | 6 |
| (6) 注記 | 7 |

2 全体会計

| | |
|-----------------------|----|
| (1) 貸借対照表【様式第 1 号】 | 11 |
| (2) 行政コスト計算書【様式第 2 号】 | 12 |
| (3) 純資産変動計算書【様式第 3 号】 | 13 |
| (4) 資金収支計算書【様式第 4 号】 | 14 |
| (5) 附属明細書【様式第 5 号】 | 15 |
| (6) 注記 | 16 |

3 財務指標

| | |
|-------------|----|
| (1) 財務指標の考察 | 19 |
|-------------|----|

○統一的な基準による財務書類とは

従来の地方公会計制度は、歳入歳出予算の実績を明らかにし、財政上の責任を明確にすることを目的として設計されていることから、予算の執行や現金収支の把握に適したものとなっています。

その反面、これまでに資産がどの程度形成されていて、その財源の内訳がどのようになっているのかについての情報（ストック情報）が不十分であり、また、現金主義に基づく公会計制度においては、現金支出以外に発生している行政コスト（減価償却費など）を把握することができません。

そこで、現金収支だけでなく、これまでに蓄積された資産や発生した経費を含めて分析・公表するために民間企業の会計手法を取り入れたのが、統一的な基準による財務書類、すなわち、貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書及び資金収支計算書の 4 表です。

貸借対照表
(平成29年3月31日現在)

(単位:千円)

| 科目名 | 金額 | 科目名 | 金額 |
|---------------|-------------|----------------|------------|
| 【資産の部】 | | 【負債の部】 | |
| 固定資産 | 23,536,933 | 固定負債 | 4,731,004 |
| 有形固定資産 | 21,955,133 | 地方債 | 3,741,884 |
| 事業用資産 | 9,393,612 | 長期未払金 | - |
| 土地 | 2,134,847 | 退職手当引当金 | 952,834 |
| 立木竹 | 1,681,950 | 損失補償等引当金 | - |
| 建物 | 15,035,792 | その他 | 36,286 |
| 建物減価償却累計額 | △10,030,331 | 流動負債 | 634,200 |
| 工作物 | 1,313,011 | 1年内償還予定地方債 | 496,185 |
| 工作物減価償却累計額 | △754,897 | 未払金 | - |
| 船舶 | - | 未払費用 | - |
| 船舶減価償却累計額 | - | 前受金 | - |
| 浮標等 | - | 前受収益 | - |
| 浮標等減価償却累計額 | - | 賞与等引当金 | 59,069 |
| 航空機 | - | 預り金 | 65,903 |
| 航空機減価償却累計額 | - | その他 | 13,043 |
| その他 | - | 負債合計 | 5,365,204 |
| その他減価償却累計額 | - | 【純資産の部】 | |
| 建設仮勘定 | 13,241 | 固定資産等形成分 | 24,899,216 |
| インフラ資産 | 12,198,000 | 余剰分(不足分) | △4,824,738 |
| 土地 | 187,020 | | |
| 建物 | - | | |
| 建物減価償却累計額 | - | | |
| 工作物 | 22,709,623 | | |
| 工作物減価償却累計額 | △10,776,986 | | |
| その他 | - | | |
| その他減価償却累計額 | - | | |
| 建設仮勘定 | 78,342 | | |
| 物品 | 1,341,245 | | |
| 物品減価償却累計額 | △977,724 | | |
| 無形固定資産 | 2,025 | | |
| ソフトウェア | 2,025 | | |
| その他 | - | | |
| 投資その他の資産 | 1,579,775 | | |
| 投資及び出資金 | 165,251 | | |
| 有価証券 | 94 | | |
| 出資金 | 165,157 | | |
| その他 | - | | |
| 投資損失引当金 | - | | |
| 長期延滞債権 | 45,203 | | |
| 長期貸付金 | - | | |
| 基金 | 1,298,057 | | |
| 減債基金 | - | | |
| その他 | 1,298,057 | | |
| その他 | 73,000 | | |
| 徴収不能引当金 | △1,735 | | |
| 流動資産 | 1,902,749 | | |
| 現金預金 | 528,257 | | |
| 未収金 | 12,695 | | |
| 短期貸付金 | - | | |
| 基金 | 1,362,283 | | |
| 財政調整基金 | 1,155,033 | | |
| 減債基金 | 207,250 | | |
| 棚卸資産 | - | | |
| その他 | - | | |
| 徴収不能引当金 | △486 | | |
| 資産合計 | 25,439,682 | 純資産合計 | 20,074,478 |
| | | 負債及び純資産合計 | 25,439,682 |

行政コスト計算書

自 平成28年4月1日
至 平成29年3月31日

(単位:千円)

| 科目名 | 金額 |
|-------------|-----------|
| 経常費用 | 5,608,996 |
| 業務費用 | 2,919,802 |
| 人件費 | 1,030,404 |
| 職員給与費 | 619,402 |
| 賞与等引当金繰入額 | 59,069 |
| 退職手当引当金繰入額 | 13,346 |
| その他 | 338,587 |
| 物件費等 | 1,843,099 |
| 物件費 | 948,438 |
| 維持補修費 | 73,430 |
| 減価償却費 | 819,580 |
| その他 | 1,651 |
| その他の業務費用 | 46,299 |
| 支払利息 | 27,904 |
| 徴収不能引当金繰入額 | △405 |
| その他 | 18,801 |
| 移転費用 | 2,689,194 |
| 補助金等 | 1,181,655 |
| 社会保障給付 | 633,722 |
| 他会計への繰出金 | 848,616 |
| その他 | 25,201 |
| 経常収益 | 151,413 |
| 使用料及び手数料 | 74,411 |
| その他 | 77,002 |
| 純経常行政コスト | 5,457,583 |
| 臨時損失 | 86,218 |
| 災害復旧事業費 | - |
| 資産除売却損 | 86,217 |
| 投資損失引当金繰入額 | - |
| 損失補償等引当金繰入額 | - |
| その他 | 1 |
| 臨時利益 | - |
| 資産売却益 | - |
| その他 | - |
| 純行政コスト | 5,543,801 |

純資産変動計算書

自 平成28年4月1日
至 平成29年3月31日

(単位:千円)

| 科目名 | 合計 | 固定資産等形成分 | 余剰分(不足分) |
|----------------|------------|------------|------------|
| 前年度末純資産残高 | 19,909,724 | 24,615,416 | △4,705,692 |
| 純行政コスト(△) | △5,543,801 | | △5,543,801 |
| 財源 | 5,395,943 | | 5,395,943 |
| 税金等 | 4,326,212 | | 4,326,212 |
| 国県等補助金 | 1,069,731 | | 1,069,731 |
| 本年度差額 | △147,858 | | △147,858 |
| 固定資産等の変動(内部変動) | | △28,811 | 28,811 |
| 有形固定資産等の増加 | | 887,242 | △887,242 |
| 有形固定資産等の減少 | | △983,642 | 983,642 |
| 貸付金・基金等の増加 | | 268,506 | △268,506 |
| 貸付金・基金等の減少 | | △200,917 | 200,917 |
| 資産評価差額 | - | - | |
| 無償所管換等 | 312,612 | 312,612 | |
| その他 | - | - | - |
| 本年度純資産変動額 | 164,754 | 283,800 | △119,047 |
| 本年度末純資産残高 | 20,074,478 | 24,899,216 | △4,824,738 |

資金収支計算書

自 平成28年4月1日
至 平成29年3月31日

(単位:千円)

| 科目名 | 金額 |
|-----------------|-----------------|
| 【業務活動収支】 | |
| 業務支出 | 4,858,481 |
| 業務費用支出 | 2,169,287 |
| 人件費支出 | 1,011,723 |
| 物件費等支出 | 1,047,633 |
| 支払利息支出 | 27,904 |
| その他の支出 | 82,027 |
| 移転費用支出 | 2,689,194 |
| 補助金等支出 | 1,181,655 |
| 社会保障給付支出 | 633,722 |
| 他会計への繰出支出 | 848,616 |
| その他の支出 | 25,201 |
| 業務収入 | 5,614,024 |
| 税金等収入 | 4,325,026 |
| 国県等補助金収入 | 1,069,731 |
| 使用料及び手数料収入 | 74,265 |
| その他の収入 | 145,002 |
| 臨時支出 | - |
| 災害復旧事業費支出 | - |
| その他の支出 | - |
| 臨時収入 | - |
| 業務活動収支 | 755,543 |
| 【投資活動収支】 | |
| 投資活動支出 | 1,021,495 |
| 公共施設等整備費支出 | 887,242 |
| 基金積立金支出 | 132,382 |
| 投資及び出資金支出 | - |
| 貸付金支出 | 1,871 |
| その他の支出 | - |
| 投資活動収入 | 191,124 |
| 国県等補助金収入 | - |
| 基金取崩収入 | 189,253 |
| 貸付金元金回収収入 | 1,871 |
| 資産売却収入 | - |
| その他の収入 | - |
| 投資活動収支 | △830,371 |
| 【財務活動収支】 | |
| 財務活動支出 | 571,312 |
| 地方債償還支出 | 571,312 |
| その他の支出 | - |
| 財務活動収入 | 521,800 |
| 地方債発行収入 | 521,800 |
| その他の収入 | - |
| 財務活動収支 | △49,512 |
| 本年度資金収支額 | △124,340 |
| 前年度末資金残高 | 586,694 |
| 本年度末資金残高 | 462,354 |
| 前年度末歳計外現金残高 | 2,635 |
| 本年度歳計外現金増減額 | 63,267 |
| 本年度末歳計外現金残高 | 65,903 |
| 本年度末現金預金残高 | 528,257 |

【様式第5号】

附属明細書(全体会計)

1. 貸借対照表の内容に関する明細

※下記以外の資産及び負債のうち、その額が資産総額の100分の5を超える科目についても作成する。

(1) 資産項目の明細

① 有形固定資産の明細

(単位:千円)

| 区分 | 前年度末残高 (A) | 本年度増加額 (B) | 本年度減少額 (C) | 本年度末残高 (A)+(B)-(C) (D) | 本年度末 減価償却累計額 (E) | 本年度減価償却額 (F) | 差引本年度末残高 (D)-(E) (G) |
|------------|---------------|---------------|---------------|------------------------------|------------------------|-----------------|----------------------------|
| 事業用資産 | 21,752,908 | 926,850 | 678,616 | 22,001,142 | 12,328,654 | 359,615 | 9,672,488 |
| 土地 | 1,886,678 | 249,927 | 1,758 | 2,134,847 | - | - | 2,134,847 |
| 立木竹 | 1,681,950 | - | - | 1,681,950 | - | - | 1,681,950 |
| 建物 | 15,931,131 | 645,101 | 398,200 | 16,178,032 | 10,978,548 | 314,625 | 5,199,484 |
| 工作物 | 1,974,491 | 18,582 | - | 1,993,073 | 1,350,106 | 44,989 | 642,966 |
| 船舶 | - | - | - | - | - | - | - |
| 浮標等 | - | - | - | - | - | - | - |
| 航空機 | - | - | - | - | - | - | - |
| その他の有形固定資産 | - | - | - | - | - | - | - |
| 建設仮勘定 | 278,658 | 13,241 | 278,658 | 13,241 | - | - | 13,241 |
| インフラ資産 | 28,304,978 | 824,394 | 212,953 | 28,916,420 | 13,681,915 | 549,614 | 15,234,505 |
| 土地 | 144,321 | 57,235 | 369 | 201,188 | - | - | 201,188 |
| 建物 | 161,081 | - | - | 161,081 | 57,081 | 2,690 | 104,000 |
| 工作物 | 26,991,990 | 639,610 | 40,327 | 27,591,273 | 13,002,654 | 527,488 | 14,588,619 |
| その他の公共用財産 | 850,895 | 29,278 | 5,637 | 874,536 | 622,181 | 19,567 | 252,355 |
| 建設仮勘定 | 156,691 | 98,271 | 166,620 | 88,342 | - | - | 88,342 |
| 物品 | 1,514,000 | 132,728 | 20,305 | 1,626,423 | 1,175,254 | 82,187 | 451,169 |
| 合計 | 51,571,886 | 1,883,972 | 911,873 | 52,543,984 | 27,185,824 | 991,416 | 25,358,161 |

注 記

1 重要な会計方針

(1) 有形固定資産等の評価基準及び評価方法

- ① 有形固定資産……………取得原価
ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。
 - ア 昭和 59 年度以前に取得したもの……………再調達原価
ただし、道路、河川及び水路の敷地は備忘価額 1 円としています。
 - イ 昭和 60 年度以後に取得したもの
取得原価が判明しているもの……………取得原価
取得原価が不明なもの……………再調達原価
ただし、取得原価が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額 1 円としています。
- ② 無形固定資産……………取得原価
ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。
 - 取得原価が判明しているもの……………取得原価
取得原価が不明なもの……………再調達原価

(2) 有価証券等の評価基準及び評価方法

- ① 満期保有目的有価証券……………償却原価法（定額法）
- ② 満期保有目的以外の有価証券
市場価格のないもの……………取得原価（又は償却原価法（定額法））
- ③ 出資金
市場価格のないもの……………出資金額

(3) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法による原価法によっています。

(4) 有形固定資産等の減価償却の方法

- ① 有形固定資産（リース資産を除きます。）……………定額法
なお、主な耐用年数は以下のとおりです。
 - 建物 2 年～50 年
 - 工作物 2 年～50 年
 - 物品 2 年～18 年
- ② 無形固定資産（リース資産を除きます。）……………定額法
（ソフトウェアについては、見込利用期間（5 年）に基づく定額法によっています。）
- ③ リース資産
 - ア 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産
……………自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法
 - イ 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
……………リース期間を耐用年数とし、残存価値をゼロとする定額法

一般会計等

(5) 引当金の計上基準及び算定方法

① 徴収不能引当金

未収金、長期延滞債権及び長期貸付金については、過去5年間の平均不納欠損率により徴収不能見込額を計上しています。

② 賞与等引当金

翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

③ 退職手当引当金

期末日に在職する職員の自己都合要支給額から、組合への負担金の加入時以降の累計額から既に退職手当として支給された額の総額を控除した額に、組合における積立金額の運用益のうち当町へ按分される額を加算した額を控除した額を計上しています。

(6) リース取引の処理方法

① ファイナンス・リース取引

ア 所有権移転ファイナンス・リース取引（リース期間が1年以内のリース取引及びリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。）

通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

イ ア以外のファイナンス・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

② オペレーティング・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

(7) 資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）としています。なお、出納整理期間における取引により発生する資金の受払いを含んでいます。

(8) その他財務書類作成のための基本となる重要な事項

① 消費税及び地方消費税の会計処理

税込方式によっています。

② 物品及びソフトウェアの計上基準

物品については、取得価額又は見積価格が50万円（美術品は300万円）以上の場合に資産として計上しています。ソフトウェアについても物品の取扱いに準じています。

③ 資本的支出と修繕費の区分基準

資本的支出と修繕費の区分基準については、金額が60万円未満であるときに、修繕費として処理しています。

2 重要な後発事象

該当事項ありません。

3 偶発債務

該当事項ありません。

4 追加情報

(1) 財務書類の内容を理解するために必要と認められる事項

- ① 対象範囲（対象とする会計名）
一般会計
青年の家特別会計
- ② 一般会計等と普通会計の対象範囲等の差異
一般会計等と普通会計の対象範囲は同じです。
- ③ 地方自治法第 235 条の 5 の規定により出納整理期間が設けられています。当会計年度に係る出納整理期間（平成 29 年 4 月 1 日～5 月 31 日）における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。
- ④ 各項目の金額を千円未満で四捨五入しているため、合計等の金額が一致しない場合があります。
- ⑤ 地方公共団体財政健全化法における健全化判断比率の状況（普通会計）

| | |
|----------|------|
| 実質赤字比率 | －% |
| 連結実質赤字比率 | －% |
| 実質公債費比率 | 7.2% |
| 将来負担比率 | －% |

※ 実質赤字比率、連結実質赤字比率、将来負担比率は赤字額、将来負担額がないため、「－」で表示しています。
- ⑥ 利子補給等に係る債務負担行為の翌年度以降の支出予定額
956 千円
- ⑦ 繰越事業に係る将来の支出予定額
333,621 千円

(2) 貸借対照表に係る事項

- ① 売却可能資産に係る資産科目別の金額及びその範囲
該当する資産はありません。
- ② 減債基金に係る積立不足額
該当ありません。
- ③ 基金借入金（繰替運用）の内容
該当ありません。
- ④ 地方交付税措置のある地方債のうち、将来の普通交付税の算定基礎である基準財政需要額に含まれることが見込まれる金額
7,542,949 千円
- ⑤ 地方公共団体の財政の健全化に関する法律における将来負担比率の算定要素は、次のとおりです。

| | |
|---------------------------|--------------|
| 標準財政規模 | 4,099,408 千円 |
| 元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額 | 771,718 千円 |
| 将来負担額 | 9,898,693 千円 |
| 充当可能基金額 | 3,135,259 千円 |
| 特定財源見込額 | 0 千円 |
| 地方債現在高等に係る基準財政需要額算入見込額 | 7,542,949 千円 |

一般会計等

(3) 純資産変動計算書に係る事項

純資産における固定資産等形成分及び余剰分（不足分）の内容

① 固定資産等形成分

資産形成のために充当した資源の蓄積をいい、固定資産の額に流動資産における短期貸付金及び基金を加えた額を計上しています。

② 余剰分（不足分）

費消可能な資源の蓄積（原則として金銭）をいい、純資産合計額のうち、固定資産等形成分を差し引いた金額を計上しています。

(4) 資金収支計算書に係る事項

① 基礎的財政収支（プライマリーバランス）

業務活動収支（支払利息支出を除く） 783,447 千円

投資活動収支 Δ 830,371 千円

基礎的財政収支 Δ 46,924 千円

② 既存の決算情報との関連性

| | 収入（歳入） | 支出（歳出） |
|-------------------------|--------------|--------------|
| 歳入歳出決算書 | 6,881,501 千円 | 6,420,254 千円 |
| 財務書類の対象となる会計の範囲の相違に伴う差額 | 32,140 千円 | 31,034 千円 |
| 資金収支計算書 | 6,913,642 千円 | 6,451,287 千円 |

地方自治法第 233 条第 1 項に基づく歳入歳出決算書は、「一般会計」を対象範囲としているのに対し、資金収支計算書は「一般会計等」を対象範囲としているため、歳入歳出決算書と資金収支計算書は一部の特別会計（松川町青年の家特別会計）の分だけ相違します。

③ 資金収支計算書の業務活動収支と純資産変動計算書の本年度差額との差額の内訳

資金収支計算書の業務活動収支 755,543 千円

減価償却費 Δ 819,580 千円

資産売却損 Δ 86,217 千円

未収債権、未払債務等の増加減少 21,481 千円

徴収不能引当金の増加減少 Δ 405 千円

退職手当引当金の増加減少 Δ 13,346 千円

賞与引当金の増加減少 Δ 5,335 千円

純資産変動計算書の本年度差額 Δ 147,858 千円

④ 一時借入金

資金収支計算書上、一時借入金の増減額は含まれていません。

なお、一時借入金の限度額は 600,000 千円です。

⑤ 重要な非資金取引

該当ありません。

以上

連結貸借対照表

(平成29年3月31日現在)

(単位:千円)

| 科目名 | 金額 | 科目名 | 金額 |
|---------------|-------------|----------------|------------|
| 【資産の部】 | | 【負債の部】 | |
| 固定資産 | 27,668,657 | 固定負債 | 6,135,230 |
| 有形固定資産 | 25,358,161 | 地方債等 | 4,474,064 |
| 事業用資産 | 9,672,488 | 長期未払金 | - |
| 土地 | 2,134,847 | 退職手当引当金 | 952,834 |
| 立木竹 | 1,681,950 | 損失補償等引当金 | - |
| 建物 | 16,178,032 | その他 | 708,332 |
| 建物減価償却累計額 | △10,978,548 | 流動負債 | 802,230 |
| 工作物 | 1,993,073 | 1年内償還予定地方債等 | 622,588 |
| 工作物減価償却累計額 | △1,350,106 | 未払金 | 33,232 |
| 船舶 | - | 未払費用 | - |
| 船舶減価償却累計額 | - | 前受金 | 87 |
| 浮標等 | - | 前受収益 | - |
| 浮標等減価償却累計額 | - | 賞与等引当金 | 67,037 |
| 航空機 | - | 預り金 | 65,903 |
| 航空機減価償却累計額 | - | その他 | 13,383 |
| その他 | - | 負債合計 | 6,937,460 |
| その他減価償却累計額 | - | 【純資産の部】 | |
| 建設仮勘定 | 13,241 | 固定資産等形成分 | 29,030,940 |
| インフラ資産 | 15,234,505 | 余剰分(不足分) | △5,830,416 |
| 土地 | 201,188 | 他団体出資等分 | - |
| 建物 | 161,081 | | |
| 建物減価償却累計額 | △57,081 | | |
| 工作物 | 27,591,273 | | |
| 工作物減価償却累計額 | △13,002,654 | | |
| その他 | 874,536 | | |
| その他減価償却累計額 | △622,181 | | |
| 建設仮勘定 | 88,342 | | |
| 物品 | 1,626,423 | | |
| 物品減価償却累計額 | △1,175,254 | | |
| 無形固定資産 | 191,133 | | |
| ソフトウェア | 2,025 | | |
| その他 | 189,108 | | |
| 投資その他の資産 | 2,119,363 | | |
| 投資及び出資金 | 165,251 | | |
| 有価証券 | 94 | | |
| 出資金 | 165,157 | | |
| その他 | - | | |
| 長期延滞債権 | 78,851 | | |
| 長期貸付金 | - | | |
| 基金 | 1,805,139 | | |
| 減債基金 | - | | |
| その他 | 1,805,139 | | |
| その他 | 73,000 | | |
| 徴収不能引当金 | △2,877 | | |
| 流動資産 | 2,469,327 | | |
| 現金預金 | 1,067,999 | | |
| 未収金 | 27,129 | | |
| 短期貸付金 | - | | |
| 基金 | 1,362,283 | | |
| 財政調整基金 | 1,155,033 | | |
| 減債基金 | 207,250 | | |
| 棚卸資産 | 8,367 | | |
| その他 | 4,300 | | |
| 徴収不能引当金 | △752 | | |
| 繰延資産 | - | 純資産合計 | 23,200,524 |
| 資産合計 | 30,137,984 | 負債及び純資産合計 | 30,137,984 |

連結行政コスト計算書

自 平成28年4月1日
至 平成29年3月31日

(単位:千円)

| 科目名 | 金額 |
|-------------|-----------|
| 経常費用 | 9,042,784 |
| 業務費用 | 3,822,047 |
| 人件費 | 1,276,934 |
| 職員給与費 | 847,471 |
| 賞与等引当金繰入額 | 67,037 |
| 退職手当引当金繰入額 | 13,346 |
| その他 | 349,080 |
| 物件費等 | 2,415,399 |
| 物件費 | 1,330,319 |
| 維持補修費 | 79,271 |
| 減価償却費 | 1,003,195 |
| その他 | 2,613 |
| その他の業務費用 | 129,714 |
| 支払利息 | 54,506 |
| 徴収不能引当金繰入額 | △710 |
| その他 | 75,919 |
| 移転費用 | 5,220,738 |
| 補助金等 | 1,352,086 |
| 社会保障給付 | 3,316,773 |
| その他 | 61,685 |
| 経常収益 | 904,840 |
| 使用料及び手数料 | 296,537 |
| その他 | 608,303 |
| 純経常行政コスト | 8,137,945 |
| 臨時損失 | 86,249 |
| 災害復旧事業費 | - |
| 資産除売却損 | 86,217 |
| 損失補償等引当金繰入額 | - |
| その他 | 32 |
| 臨時利益 | - |
| 資産売却益 | - |
| その他 | - |
| 純行政コスト | 8,224,193 |

連結純資産変動計算書

自 平成28年4月1日
至 平成29年3月31日

(単位:千円)

| 科目名 | 合計 | 固定資産等形成分 | 余剰分(不足分) | 他団体出資等分 |
|----------------|------------|------------|------------|---------|
| 前年度末純資産残高 | 23,007,292 | 28,691,490 | △5,684,198 | - |
| 純行政コスト(△) | △8,224,193 | | △8,224,193 | - |
| 財源 | 8,104,814 | | 8,104,814 | - |
| 税金等 | 6,118,649 | | 6,118,649 | - |
| 国県等補助金 | 1,986,164 | | 1,986,164 | - |
| 本年度差額 | △119,380 | | △119,380 | - |
| 固定資産等の変動(内部変動) | | 26,838 | △26,838 | |
| 有形固定資産等の増加 | | 1,135,742 | △1,135,742 | |
| 有形固定資産等の減少 | | △1,189,375 | 1,189,375 | |
| 貸付金・基金等の増加 | | 281,389 | △281,389 | |
| 貸付金・基金等の減少 | | △200,917 | 200,917 | |
| 資産評価差額 | - | - | | |
| 無償所管換等 | 312,612 | 312,612 | | |
| 他団体出資等分の増加 | | | - | - |
| 他団体出資等分の減少 | | | - | - |
| 比例連結割合変更に伴う差額 | - | - | - | - |
| その他 | - | - | - | - |
| 本年度純資産変動額 | 193,232 | 339,450 | △146,218 | - |
| 本年度末純資産残高 | 23,200,524 | 29,030,940 | △5,830,416 | - |

連結資金収支計算書

自 平成28年4月1日
至 平成29年3月31日

(単位:千円)

| 科目名 | 金額 |
|----------------------|------------------|
| 【業務活動収支】 | |
| 業務支出 | 8,116,791 |
| 業務費用支出 | 2,896,054 |
| 人件費支出 | 1,099,231 |
| 物件費等支出 | 1,603,664 |
| 支払利息支出 | 54,506 |
| その他の支出 | 138,653 |
| 移転費用支出 | 5,220,738 |
| 補助金等支出 | 1,352,086 |
| 社会保障給付支出 | 3,316,773 |
| その他の支出 | 61,685 |
| 業務収入 | 9,065,379 |
| 税収等収入 | 6,106,402 |
| 国県等補助金収入 | 1,986,164 |
| 使用料及び手数料収入 | 296,589 |
| その他の収入 | 676,224 |
| 臨時支出 | 31 |
| 災害復旧事業費支出 | - |
| その他の支出 | 31 |
| 臨時収入 | - |
| 業務活動収支 | 948,557 |
| 【投資活動収支】 | |
| 投資活動支出 | 1,177,483 |
| 公共施設等整備費支出 | 1,031,974 |
| 基金積立金支出 | 143,639 |
| 投資及び出資金支出 | - |
| 貸付金支出 | 1,871 |
| その他の支出 | - |
| 投資活動収入 | 210,871 |
| 国県等補助金収入 | 1,230 |
| 基金取崩収入 | 189,253 |
| 貸付金元金回収収入 | 1,871 |
| 資産売却収入 | 4,027 |
| その他の収入 | 14,490 |
| 投資活動収支 | △966,612 |
| 【財務活動収支】 | |
| 財務活動支出 | 702,235 |
| 地方債等償還支出 | 702,235 |
| その他の支出 | - |
| 財務活動収入 | 585,700 |
| 地方債等発行収入 | 585,700 |
| その他の収入 | - |
| 財務活動収支 | △116,535 |
| 本年度資金収支額 | △134,589 |
| 前年度末資金残高 | 1,136,686 |
| 比例連結割合変更に伴う差額 | - |
| 本年度末資金残高 | 1,002,097 |
| 前年度末歳計外現金残高 | 2,635 |
| 本年度歳計外現金増減額 | 63,267 |
| 本年度末歳計外現金残高 | 65,903 |
| 本年度末現金預金残高 | 1,067,999 |

【様式第5号】

附属明細書(一般会計等)

1. 貸借対照表の内容に関する明細

※下記以外の資産及び負債のうち、その額が資産総額の100分の5を超える科目についても作成する。

(1) 資産項目の明細

① 有形固定資産の明細

(単位:千円)

| 区分 | 前年度末残高 (A) | 本年度増加額 (B) | 本年度減少額 (C) | 本年度末残高 (A)+(B)-(C) (D) | 本年度末 減価償却累計額 (E) | 本年度減価償却額 (F) | 差引本年度末残高 (D)-(E) (G) |
|------------|---------------|---------------|---------------|------------------------------|------------------------|-----------------|----------------------------|
| 事業用資産 | 19,931,928 | 924,850 | 677,938 | 20,178,840 | 10,785,228 | 326,177 | 9,393,612 |
| 土地 | 1,886,678 | 249,927 | 1,758 | 2,134,847 | - | - | 2,134,847 |
| 立木竹 | 1,681,950 | - | - | 1,681,950 | - | - | 1,681,950 |
| 建物 | 14,788,891 | 645,101 | 398,200 | 15,035,792 | 10,030,331 | 296,493 | 5,005,460 |
| 工作物 | 1,296,429 | 16,582 | - | 1,313,011 | 754,897 | 29,685 | 558,114 |
| 船舶 | - | - | - | - | - | - | - |
| 浮標等 | - | - | - | - | - | - | - |
| 航空機 | - | - | - | - | - | - | - |
| その他の有形固定資産 | - | - | - | - | - | - | - |
| 建設仮勘定 | 277,980 | 13,241 | 277,980 | 13,241 | - | - | 13,241 |
| インフラ資産 | 22,550,340 | 625,051 | 200,405 | 22,974,986 | 10,776,986 | 415,048 | 12,198,000 |
| 土地 | 130,153 | 57,235 | 369 | 187,020 | - | - | 187,020 |
| 建物 | - | - | - | - | - | - | - |
| 工作物 | 22,263,999 | 479,544 | 33,920 | 22,709,623 | 10,776,986 | 415,048 | 11,932,638 |
| その他の公共用財産 | - | - | - | - | - | - | - |
| 建設仮勘定 | 156,187 | 88,271 | 166,116 | 78,342 | - | - | 78,342 |
| 物品 | 1,256,429 | 105,121 | 20,305 | 1,341,245 | 977,724 | 74,241 | 363,521 |
| 合計 | 43,738,698 | 1,655,021 | 898,648 | 44,495,071 | 22,539,937 | 815,466 | 21,955,133 |

注 記

1 重要な会計方針

(1) 有形固定資産等の評価基準及び評価方法

- ① 有形固定資産……………取得原価
ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。
 - ア 昭和 59 年度以前に取得したもの……………再調達原価
ただし、道路、河川及び水路の敷地は備忘価額 1 円としています。
 - イ 昭和 60 年度以後に取得したもの
取得原価が判明しているもの……………取得原価
取得原価が不明なもの……………再調達原価
ただし、取得原価が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額 1 円としています。
- ② 無形固定資産……………取得原価
ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。
取得原価が判明しているもの……………取得原価
取得原価が不明なもの……………再調達原価

(2) 有価証券等の評価基準及び評価方法

- ① 満期保有目的有価証券……………償却原価法（定額法）
- ② 満期保有目的以外の有価証券
市場価格のないもの……………取得原価（又は償却原価法（定額法））
- ③ 出資金
市場価格のないもの……………出資金額

(3) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法による原価法によっています。

(4) 有形固定資産等の減価償却の方法

- ① 有形固定資産（リース資産を除きます。）……………定額法
なお、主な耐用年数は以下のとおりです。
 - 建物 2 年～50 年
 - 工作物 2 年～50 年
 - 物品 2 年～18 年ただし、一部の連結対象団体については定率法によっています。
- ② 無形固定資産（リース資産を除きます。）……………定額法
（ソフトウェアについては、見込利用期間（5 年）に基づく定額法によっています。）
- ③ リース資産
 - ア 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産
……………自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法
 - イ 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
……………リース期間を耐用年数とし、残存価値をゼロとする定額法

(5) 引当金の計上基準及び算定方法

① 徴収不能引当金

未収金、長期延滞債権及び長期貸付金については、過去5年間の平均不納欠損率により徴収不能見込額を計上しています。

② 賞与等引当金

翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

③ 退職手当引当金

期末日に在職する職員の自己都合要支給額から、組合への負担金の加入時以降の累計額から既に退職手当として支給された額の総額を控除した額に、組合における積立金額の運用益のうち当町へ按分される額を加算した額を控除した額を計上しています。

(6) リース取引の処理方法

① ファイナンス・リース取引

ア 所有権移転ファイナンス・リース取引（リース期間が1年以内のリース取引及びリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。）

通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

イ ア以外のファイナンス・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

② オペレーティング・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

(7) 連結資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）としています。なお、出納整理期間における取引により発生する資金の受払いを含んでいます。

(8) その他財務書類作成のための基本となる重要な事項

① 消費税及び地方消費税の会計処理

税込方式によっています。

② 物品及びソフトウェアの計上基準

物品については、取得価額又は見積価格が50万円（美術品は300万円）以上の場合に資産として計上しています。ソフトウェアについても物品の取扱いに準じています。

2 重要な後発事象

該当事項ありません。

3 偶発債務

該当事項ありません。

全体会計

4 追加情報

(1) 連結対象団体(会計)

一般会計等（一般会計及び青年の家特別会計）に以下の団体（会計）を連結しています。

| 団体（会計）名 | 区分 | 連結の方法 | 比例連結割合 |
|--------------|------|-------|--------|
| 国民健康保険事業特別会計 | 特別会計 | 全部連結 | - |
| 介護保険事業特別会計 | 特別会計 | 全部連結 | - |
| 後期高齢者医療特別会計 | 特別会計 | 全部連結 | - |
| 保養宿泊施設事業特別会計 | 特別会計 | 全部連結 | - |
| 発電事業特別会計 | 特別会計 | 全部連結 | - |
| 水道事業会計 | 特別会計 | 全部連結 | - |

連結の方法は以下のとおりです。

- ① 特別会計は、すべて全部連結の対象としています。

ただし、地方公営企業法の財務規程等が適用されていない地方公営企業会計のうち、当該規定等の適用に向けた作業に着手している以下の会計については、連結対象会計の対象外としています。したがって、一般会計等における他会計への繰入金等が内部相殺されない場合があります。

| | | |
|-----------------|--------|------------|
| 松川町公共下水道事業特別会計 | 他会計繰入金 | 186,960 千円 |
| 松川町農業集落排水事業特別会計 | 他会計繰入金 | 299,760 千円 |

(2) 出納整理期間

地方自治法第 235 条の 5 に基づき、出納整理期間を設けられている団体（会計）においては、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。

(3) 表示単位未満の取扱い

各項目の金額を千円未満で四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。

(4) 基礎的財政収支（プライマリーバランス）

| | |
|-------------------|--------------|
| 業務活動収支（支払利息支出を除く） | 1,003,063 千円 |
| 投資活動収支 | △966,612 千円 |
| 基礎的財政収支 | 36,451 千円 |

以上

平成 28 年度決算財務指標考察

1. 住民一人当たりの資産と負債、純経常コスト

| | 資産 | 負債 | 行政コスト |
|-------|----------|--------|--------|
| 一般会計等 | 1 9 6 万円 | 4 1 万円 | 4 2 万円 |
| 全体会計 | 2 3 2 万円 | 5 3 万円 | 6 3 万円 |

$$\text{資産} = \frac{(\text{BS}) \text{資産合計}}{\text{人口}} \quad \text{負債} = \frac{(\text{BS}) \text{負債合計}}{\text{人口}} \quad \text{純経常コスト} = \frac{(\text{PL}) \text{行政コスト}}{\text{人口}}$$

※人口は、平成 29 年 4 月 1 日現在の長野県毎月人口異動調査による・・・12,970 人

2. 歳入額対資産比率【資産形成度】

これまでに形成された資産が、歳入の何年分に相当するかを表します。この比率が高いほど、社会資本整備が進んでいます。

| | 歳入額対資産比率 |
|-------|----------|
| 一般会計等 | 3. 6 8 年 |
| 全体会計 | 2. 7 4 年 |

$$\text{資産} = \frac{(\text{BS}) \text{資産合計}}{(\text{CF}) \text{業務収入} + \text{臨時収入} + \text{投資活動収入} + \text{財務活動収入} + \text{前年度末資金残高}}$$

3. 資産老朽化比率【資産形成度】

有形固定資産の償却資産について、耐用年数に対して資産の取得からどの程度経過しているのかを表します。この比率が高いほど、老朽化が進んでいます。

| | 資産老朽化比率 |
|-------|----------|
| 一般会計等 | 5 5. 8 % |
| 全体会計 | 5 6. 1 % |

$$\text{資産} = \frac{(\text{BS}) \text{減価償却累計額合計}}{(\text{BS}) \text{取得原価合計 (土地、立木竹、建設仮勘定を除く)}}$$

4. 純資産比率【世代間公平性】

地方公共団体が持つ資産のうち、純資産（返済義務の無い資産）の割合、すなわち現世代（住民）の持分の割合を示します。この比率が高いほど、将来世代が負担する割合が低くなります。

| | 純資産比率 |
|-------|----------|
| 一般会計等 | 7 8. 9 % |
| 全体会計 | 7 7. 0 % |

$$\text{資産} = \frac{(\text{BS}) \text{純資産合計}}{(\text{BS}) \text{資産合計}}$$

5. 社会資本等形成の世代間負担比率（将来世代負担比率）【世代間公平性】

社会資本の整備の結果を示す有形固定資産のうち、どれだけ地方債などの負債（将来世代の負担）によって形成されているかを示します。この比率が高いほど、将来世代が負担する割合が高いことを示します。

| | 世代間比率 |
|-------|----------|
| 一般会計等 | 1 9. 3 % |
| 全体会計 | 2 0. 1 % |

$$\text{資産} = \frac{(\text{BS}) \text{地方債} + 1 \text{年内償還予定地方債}}{(\text{BS}) \text{有形固定資産}}$$

6. 行政コスト対税収等比率【弾力性】

税収等の一般財源等に対する行政コストの比率を算出することによって、どれだけが資産形成を伴わない行政コストに費消されたのかを表します。この比率が100%に近づくほど資産形成の余裕度が低いと言え、100%を上回ると、過去から蓄積した資産が取り崩されたことを示しています。

| | 債務償還可能年数 |
|-------|----------|
| 一般会計等 | 101.1% |
| 全体会計 | 100.4% |

$$\text{資産} = \frac{(\text{PL}) \text{ 純経常行政コスト}}{(\text{NW}) \text{ 税収等} + \text{国県等補助金}}$$

7. 債務償還可能年数【持続可能性（健全性）】

実質債務（地方債や退職手当引当金等から充当可能な基金等を控除した債務）が、経常的に確保できる資金（業務活動収支の黒字分）の何年分あるかを表します。この値が低いほど、返済能力が高いことを表します。

| | 債務償還可能年数 |
|-------|----------|
| 一般会計等 | 5.14年 |
| 全体会計 | 5.01年 |

$$\text{資産} = \frac{(\text{BS}) \text{ 地方債} + 1 \text{ 年内償還予定地方債} + \text{退職手当引当金} + \text{賞与等引当金} - \text{充当可能基金}}{(\text{CF}) \text{ 業務収入} - \text{業務支出}}$$

※充当可能基金を（BS）財政調整基金及び減債基金としています。

8. 負債比率【持続可能性（健全性）】

純資産に対する負債の割合を示します。この比率が低いほど財政状況が健全であることを示します。

| | 負債比率 |
|-------|-------|
| 一般会計等 | 26.7% |
| 全体会計 | 29.9% |

$$\text{資産} = \frac{(\text{BS}) \text{ 負債合計}}{(\text{BS}) \text{ 純資産合計}}$$

9. 受益者負担率（総負担率）【自律性】

行政サービスの提供に対する受益者負担の割合を表します。この値が低いほど、財源充当率が高いことを表します。

| | 受益者負担率 |
|-------|--------|
| 一般会計等 | 2.7% |
| 全体会計 | 10.0% |

$$\text{資産} = \frac{(\text{PL}) \text{ 経常収益}}{(\text{PL}) \text{ 経常費用}}$$